

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4472600719		
法人名	医療法人 ニコニコ診療所		
事業所名	グループホーム おさかの里(さくら館・つつじ館)		
所在地	大分県豊後大野市三重町小坂4194-9		
自己評価作成日	平成28年10月31日	評価結果市町村受理日	平成27年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成28年11月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ボランティアの協力があり、御利用者とのふれ合いを大切にしている</li> <li>・医療と介護の連携が取れており、適切な医療が素早く受けられる。</li> <li>・口腔体操やめじろん体操を行い、それぞれの残存能力を活かした取り組みを行っている。。</li> <li>・月1回はオレンジサロン万にて地域との交流や気分転換の機会を設けている。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホーム「おさかの里」は開設して15年経っているが、マンネリ化がなく、利用者と職員が一緒に過ごす場面が多く利用者に穏やかさがある。</li> <li>・利用者の健康管理や医療面、安全面に配慮され、重度化しないように適切な医療が受けられるようにしている。</li> <li>・職員の人材育成が行われ、専門職として活気があり、資格取得に向けた取り組みがある。</li> <li>・口腔体操やめじろん体操を行い、それぞれの潜在能力を活かした取り組みが行われている。。</li> <li>・月1回は「オレンジサロン万」に出かけたり、地域との交流行事を取り入れている。</li> </ul>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいないG30:J33	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼にて、理念とモットーを唱和し、職員室や玄関等に貼り実践出来る様、意識付けを行っている。	「人としての尊厳を最後まで奮わない失わない」という理念と、6つのモットーを掲示し、毎日、朝礼で唱和している。毎月モットーに焦点をあて、その月の目標として取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流はしていないが、月1回地域の方との交流を目的としてオレンジサロン万に出かけている。又、個人ボランティアの方が時々来られ交流している。	地域の「オレンジサロン万」に参加し、地域の方と交流している。食事・話し相手・掃除など様々なボランティアの方の訪問があり、地域の方とつながりがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアやサロンに来られる地位の方へ認知症の人の理解や支援について話したりしている。又、認知症サポーター養成や健康教室などで活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組み状況の説明と共に、テーマを決め話し合い、要望や意見等を活かして、サービスの向上に努めている。	2か月に1度、家族や地域の方など大勢の参加のもと開催され、サービスの報告をし、モットーの見直しの提案など、参加者の意見を取り入れサービスの向上に努めている。参加者からのアドバイスにより、利用者の筋力UPを目的に、めじろん体操やぶんとこ節などの体操が取り入れられた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで、実情の報告や相談、疑問点など聞いて関係を築ける様に取り組んでいる。	運営推進会議時に、事業所の実情や取り組みについて相談している。防災について、記録やフローチャート作成についてのアドバイスや、介護職ができる看護ケアについての相談など、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の研修会に全員参加し学んで、拘束しない事を前提に、日々のケアの中で拘束ではないかどうかを話し合い取り組んでいる。	法人全体の研修会に参加し、身体拘束をしないケアについて正しく理解し、会議の中で話し合い、強化月間の制定がされている。標語コンクール・ベット脇にパットを敷くなど、拘束をしないケアに取り組むため様々な工夫がされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の研修会に全員参加し学んで、入浴・更衣時に、ボディチェックを行い傷等があれば記録に残し取り組んでいる。特に言葉には注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体の研修会に全員参加して学んでいるが、現在活用はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の不安や疑問点等に対して説明を行い、その都度理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営会議などで意見や要望が出せる様努め、それを反映できるようにしている。	運営推進会議や面会の際に、家族の意見や要望を聞き、利用者がこれまでのような暮らしが続けられるように本人の希望をもとに、工夫しながら取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議やカンファレンス、日々のケア等で意見や提案を聞いて出来るだけ反映させているが難しいこともある。	会議やカンファレンス時に職員の意見を聞き反映させている。また意見交換ノートで職員の思いをくみ取り、会議での意見や提案が運営に反映されるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の日誌を確認するなどして状況の把握に努めたり、個人面談など行い条件の整備に努めているが、反映されるのに時間がかかる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修が確保されており、レベルアップの為にトレーニングの機会も検討している。必要な研修には外部の研修も参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症研究会や大分県小規模ネットワーク等で同業者との交流する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談があった時から本人と家族との顔合わせを行い、関係作りに努めて安心出来る様に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談時より、疑問点や不安・困りごと等を聞き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、他職種とも話し合い、必要とする支援への対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し・たたみ・お茶葉入れ・モップ掛け・テーブル拭き・シーツ交換・ゴミ集め等、共に行い、時には人生の先輩として相談をしながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、共にお茶を飲んだり、爪切りや髭剃り等を行い絆を深めたり、散歩やドライブ、病院受診等に家族と共に出かけたりと関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのボランティアの方や友人が訪ねて来たり家族の協力も得ながら馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	昔馴染みの友人や地域のボランティアの方が訪ねてきたり、併設の老健と渡り廊下で日常的に行き来でき、馴染みの人と会うこともできる。散歩やドライブで馴染みの場所に出かけたり関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ちょっとしたトラブルはあるが、利用者同士が関わりを持ち支え合って楽しく暮らせるよう支援に努めている。座る席や居室もうまく行くよう本人・家族と相談しながら配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に入所されても面会に行き、本人との関係を大切にして家族への連絡を行って支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに耳を傾ける様に努め、希望に近づける様家族とも話し合っ、職員同士が意向を共有出来る様、申し送りノート等活用して検討に努めている。	センター方式のアセスメント表を用い、利用者や家族の思いや意向を把握し本人本位に検討し、ケアプランに反映している。申し送りノートを活用し、利用者一人ひとりの思いや意向を、職員同士で共有し、日々のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から今までの暮らしや歴史などを聞き情報を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり自由な過ごし方をしており、バイタルチェックや食事量、様子観察、会話等により、何が出来ているのか何が出来なくなったのか、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見が反映される様、話し合って介護計画を作成する様努めている。	ケアプラン実施記録で内容を確認しながら、毎日チェックし月末に評価し、3か月ごとに計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やチェック表、申し送りノート等に記入し、職員間で情報の共有を行って、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他職種と話し合う機会を持ち意見を日々のケアに反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの協力で、四季の花や会話、料理、踊りや歌、読み聞かせ等、楽しむ事が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療やそれぞれの馴染みの医師による医療が受けられる様努め、関係を築きながら支援している。	月に2回の訪問診療や、それぞれのかかりつけ医への訪問など、ほぼ毎日医師とつながりがあり、状態の変化の際に迅速な対応ができ、安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な事でも身体的・精神的トラブルは看護職や訪問看護師等に伝えて相談し適切な支援が受けられる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調が落ち着けば早期の退院が可能かどうか情報交換を行い、病院への訪問などして関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医とよく話し合い、事前に申し合わせ書を作成しており、段階ごとに関係者と意見を確認しながら、チームとして支援に取り組んでいる。	重度化した場合の指針をもとに説明し、入居時に急変時の意思確認を書面で確認している。事業所で出来ることなどを本人や家族と事前に話し合い、訪問看護を導入した看取りなどの事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体研修に全員参加して、心臓マッサージやAEDの実践を行い、身につけていると共に、マニュアルを目の届く所に置いてすぐ見れる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時での避難策を昼夜共に検討し地域の方の協力を預けるように努めている。	年に2回の避難訓練は火災・夜間・地震などの想定で行っている。ボランティアや日赤の方と災害時の食事作りを行ったり、地域の方との協力体制が築かれている。備蓄や緊急時のライトなどの備えもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を尊重し、理念を忘れることなく、プライドやプライバシーを損なわない様な声かけが出来るよう努めている。	理念や6つのモットーの中に掲げ、尊厳を大切に言葉かけやプライバシーを大切にしたい対応を行っている。全体の研修、強化月間などで職員の意識づけを図り、ケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に発言が出来、職員はそれを傾聴して出来るだけ希望がかなえられる様、又、自己決定が出来る様、努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に沿って一人ひとりのペースを大事に支援してはいるが職員の都合が優先する事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容室に行き好みの髪形にしたり、入浴時や行事等で本人に選んでもらったり、好みのお化粧をしたりして、おしゃれが出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は手造りしているが、昼・夕は業者発注である。片付け等は時々、行って頂いている。おやつは準備し、選んで頂く事もある。	朝食は手作りで、昼と夜は委託業者から運ばれてきた食事を一緒にテーブルで食べて、食事を楽しんでいる。おやつバイキングや手作りおやつなど、食事が楽しみになる工夫もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量などチェックしており、ペースト、高カロリーゼリー、栄養ドリンク、刻み等、個々に合った食事形態で、出来るだけ食べて頂ける様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スポンジブラシの使用やウガイ等、個々に合った口腔ケアを行っている。義歯洗浄剤は毎日使用し口の中の汚れや臭いの防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせてトイレ誘導やパット交換を行っており、出来るだけトイレでの排泄が出来る様支援している。	トイレでの排泄ができるよう、一人ひとりのタイミングなどを見きわめて声かけ誘導を行っている。居室にトイレがあり、夜間はベッドにトイレを近づけるなどの配慮がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や散歩の声かけと共にオリゴ糖や乳製品の飲料、水分補給、腹部マッサージ等、予防に努めているが、緩下剤の使用も多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体制上の都合で曜日を決めてはいるが希望すれば入浴できるように努めている。拒否の強い方に対しては、無理強いせず時間や日にちをずらしている。入浴剤を使って楽しめる工夫をしている。	基本的には週2回の入浴だが、これまでの生活習慣や希望を大切にしながら、声かけし、自由に選択してもらっている。入浴を嫌がる方には無理強いせず、興味の出る言葉がけや曜日や時間をずらすなど工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ居室やホール、ベッドやソファなどで日中は自由に休息しており、夜間は側に居る事を伝え、安心して眠れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前や効能、副作用等を一覧表にしており、症状や変化を観察して何かあれば看護職員に報告を行っている。内服確認と内服後の状態をチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や裁縫、時代劇鑑賞、籠作り、洗濯物たたみやテーブル拭き等、楽しみや役割を持てる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内は自由に散歩する事が出来る。家族の協力等で出掛ける事も出来ている。オレンジサロン万での交流会を実施している。	敷地内の散歩は自由に出来、1日に1度は屋外の空気に触れてもらっている。また桜やアジサイなどの花見、道の駅への買い物やオレンジサロン万、地域や馴染みの場所へ行くなどの外出支援がされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さを理解はしているが、現在お金を持たれている方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で職員室から自由に電話をかけ話したり、かかってきた電話で自由に話したりしている。又、本人持ちの携帯電話を準備していたり、郵便物のやり取り等の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や飾り付けをして工夫をしている。昼間は自然な光を取り入れ夜もゆっくり過ごせるよう明るすぎない照明を心がけている。室温も利用者に合わせて調整し、冬は加湿器を準備し快適に過ごせるようにしている。	自然な光や風が入る共有空間のソファや広々と並べられたテーブル等で、それぞれがゆっくりとくつろげる空間となっている。冬は加湿器を準備したり、照明や温度などにも配慮し、利用者が快適に過ごせるよう調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファ、デッキや玄関ポーチに椅子を置き、自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や飾り、使い慣れた物等があり過ごしやすい工夫している。	家族や職員との写真が飾られ、使い慣れた物を配置し居心地のいい居室になるよう配慮されている。またベッドの位置や、ケガ防止のカバーやまわりにマットを敷くなど安全にも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせてベッドの位置などを工夫しており、手すりも多く、さりげない声かけに安心で安全でいられる様工夫している。		